

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170200485		
法人名	社会福祉法人 平成会		
事業所名	グループホーム ハートフル		
所在地	岐阜県関市下有知5367番地4		
自己評価作成日	平成27年8月1日	評価結果市町村受理日	平成27年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2015_022_kani=true&ji_gyosyoCd=2170200485-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市伝馬町110番地
訪問調査日	平成27年9月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームハートフルは、周りを自然に囲まれた環境にあり、四季折々の草花を楽しむことができ自然を目いっぱい感じることができます。併設施設のご利用者や職員との関係も良く、互いに自由に行き来し、なじみの関係を大切にしています。家族との外出や地域のボランティアに月1回来所して頂き交流も図っています。また、家庭菜園も行っており、四季に応じた野菜や果物を作り育て、自ら収穫し、食事メニューの中に取り入れ皆で調理を行い、季節を感じる献立を取り入れています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設13年を迎える事業所は、山を背に緑に囲まれ、自然豊かな、癒され、くつろげる環境にある。緩やかな坂道はゆっくり歩むことができる。利用者は、経験を活かし、野菜や花作りに生きがいを感じ、時々収穫物を食卓にのせている。職員と裏山で筍を掘り、郷土料理を作って楽しんでいる。職員は利用者から生活の知識を学び共に暮らせる居場所になっている。併設の施設と交流し、馴染みの知人友人と出会える楽しみもある。重度化に伴う介護の指針や看取りに関する指針が明記され、利用者・家族に入居時から説明しており、その都度の対応にも安心できる。職員は内部・外部の研修を受け、自身の技術、質の向上を図っている。

Ⅴ. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)＋(Enterキー)です。〕

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「福祉の原点はサービスである。サービスに徹する。」ハートフルという名前の如く、「努力する心いっぱい」「豊かな心いっぱい」「祈りの心いっぱい」それに感謝する心を持って生かされていることを十分に心にとめて、日々の業務に努める。理念を玄関に掲示すると共に、毎週月曜日、職員の申送りで読み上げ、復唱し、意識を持ち、業務にあたっている。	法人の理念の意義を踏まえ、利用者が「わはは」と笑える暮らしができる実践に取り組んでいる。また、年間目標を作り、達成に向けて努力することでサービスの質の向上にも取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	月1回で様々な地域ボランティアに訪問を依頼して、交流を図り、行事の工夫を行っている。また、地域のふれあいセンターを利用して、民生委員や包括の方々の協力のもと、行事を行っている。	チラシで地域に呼びかけ、ふれあいセンターでマジックショーを開催し盛大に行った。12月にも開催を予定している。認知症の理解や、事業所を知ってもらえるように活動しているが、地理的な理由から訪問が少ないため、日常的な交流には至っていない。	訪問してもらえるように職員及び法人全体で検討し、意見を出し合い努力・工夫を重ねてほしい。日常的な交流が図れることを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の福祉や看護学生の実習生の受け入れを実施している。近隣地域の小、中、高等学校よりボランティア活動の受け入れも行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月行っている活動や行事などを報告し、ご家族・ご利用者の意見や要望を取り入れていけるような話し合いを行っている。なるべく多くの出席が得られるよう、アンケートを取り、それに基づいて日程を決め開催している。	メンバーの参加しやすい日程で開催し、会議の中では意見も得られている。しかし、メンバーが偏りがちで地域住民の意見があまりない。また、会議内容を家族に知らせていない。	地域とのつながりを深めるには、地域代表の参加を追加選任し意見を得ることも必要に思われる。また、家族に会議報告を知らせ意見が得られるように期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	年6回の運営推進会議には、市担当者に毎回出席して頂いており、その際に市の情報等もご家族へお伝えして頂いている。	利用者の更新手続きや、監査書類など提出に出かけた際に、情報も得ている。困りごとや相談にはこまめに担当者と話し合い解決している。行政の行事にも参加協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホーム内は、日中、全扉には施錠しておらず、自由にご利用者に生活していただいている。身体拘束を行うことなく支援していただける方法をその都度話し合い、対応している。	法人の内部研修や、外部研修に参加して学習し共有している。気になることはカンファレンスで検討し拘束しないケアに取り組んでいる。ベットからの転倒にマットを置き、通路に夜間センサーを設置するなど安全に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内部、外部研修の実施、参加を推進。また、玄関にパンフレットや制度の説明書を設置し、相談を受ける時はパンフレットなどを使用して説明している。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内部、外部研修にて学んだことを、会議にて発表し、情報共有を行っている。ケアマネや上司が補足にて説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に事前面接を行い、ご家族、ご利用者の不安や要望を伺うと共に十分な説明を行い、理解納得を得て、ご家族に同意を得ている。契約時にも、疑問点等あれば、その都度説明させて頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的に介護相談員の訪問をうけており、利用者と談笑され、帰るときに気付いたことや感想などをノートに記入してもらっている。	担当職員が家族の訪問時や出向いて意見や要望を聞いている。アンケートの記入もお願いしている。一筆箋で個別にお知らせもしている。年2回の家族会で意見や要望を尋ねている。行政からの介護相談員の意見も運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のGH会議に於いて職員の意見を取り入れ話し合いの場を持っている。また、年2回の個人面接時や普段の業務時において相談に応じている。	日常の相談はその都度、(クーラー、電子レンジ、洗濯機の故障や購入など)管理者などに話している。個人面談には情意(自己)評価に基づき管理者・副主任が面談し対応している。事業所周辺の夜間照明の要望を出し、実現した。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	法人の目標に沿った部門目標・個人目標を設定し、各職員の〈やる気〉を引き出す取り組みを行っている。また、年1回改善提案の募集があり、各個人や共同にて提案し良い案に対しては奨励金制度もある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内部・外部研修の实地、担当職員のOJTなどで育成、指導している。新人職員指導の際には、「介護職員スキルアップ表」を使用している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会中濃支部に加入しており、他施設との意見交換をして交流をはかっている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接時、利用者・家族がゆっくり話ができる様に傾聴に心掛けている。併設の居宅サービスを利用されていた方は、利用中にグループホーム職員が様子伺ったり、他職員と情報共有の強化に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に来られた時は十分に話を伺い、入所まで間がある時は、電話などで様子を伺い相談や情報交換に対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族のニーズに応じて話を聞きながら、併設施設の相談員とも連携をとっており、他施設の紹介も行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	おやつ作りや畑で収穫した野菜を使った食事作り、週に1度の外出(喫茶店・買い物)などを通じて共にあたりまえの日常を共有している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族面会時と年4回一筆箋にて、利用者の日常の様子をお知らせしている。また、年2回運動会や日帰り旅行など皆で一緒に過ごせる時間を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入所前に利用していたショートスティやデイサービス利用者との馴染みの関係を継続して頂いている。自由に行き来し、開放的な雰囲気である。	併設施設の利用時に、なじみになった人と散歩時にであったり、踊りのボランティアと師弟だったり、その都度その都度の訪問者との出会いを大切に、継続できるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	居室で過ごされている方も時折職員が声を掛けてリビングへお誘いし、他利用者と一緒に過ごせるようはたらきかけている。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(契約)終了の際は、「お近くへみえたら、またお立ち寄り下さい。」「困った事などありましたら、いつでも相談下さい。」と気軽に来所できるよう声をかけ配慮している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前面接時や入所に至るまで、入所後もご家族の面会時や電話連絡を行い、想いや希望を把握するよう努めている。また、日々の会話の中からニーズを引き出せるよう努めている。	担当職員が利用者と一緒に過ごす時間を作り、「服が欲しい」「食べたいもの」などゆっくり思いを聞いている。利用者の表情や仕草から感じた時は、寄り添い話しやすい雰囲気を作っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面接時には、特にご家族や本人より生活歴や趣味嗜好等をじっくり伺って記録している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の変化を記録に残し、月1回のモニタリング時にケアマネを交え話し合いを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	生活の中でご本人の想いや希望などを伺い、担当者・ご家族・ケアマネージャー・医師・看護師とも相談しながら、ご本人の意見を反映できるよう個別に検討し介護計画の作成をしている。	利用者担当者が利用者・家族の意向をまとめ、毎月のモニタリング会議で検討し作成している。医師の意見は、診察日に尋ね看護師とも連携し計画に反映している。利用者の状態の変化に合わせ介護計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	定期的にモニタリングと評価を実地。GH会議にてカンファレンスを行い、職員全員で見直し変更を話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診の時など車椅子が必要な利用者のご家族などには、希望があれば病院までの送迎を行っている。また、併設施設の運転手の応援を受けることもある。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域ボランティアの活用により、マジックショーや歌謡ショーなどのお楽しみ会を開催。利用者に楽しんでいただけるような機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診先はご本人及びご家族の希望を尊重しており、「かかりつけ医」の連携の下、体調管理や体調不良時など、24時間体制で対応可能。重症時には地元総合病院への紹介、連絡の協力もあり。	かかりつけ医は本人・家族の希望に合わせている。状況に合わせ、職員が受診送迎をしている。かかりつけ医とは書面で連携し緊急の往診も受けている。又、併設特養の看護師にも24時間連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	GH担当の看護師に情報や気好づきを随時報告し、指示を仰いでいる。また、夜間は看護師との連携により、急変時に十分対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院者が出た場合、管理者が週1回面会に伺い家族より状態を聞き、病院関係者への情報交換を行い、ご家族・ご利用者の相談等に対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力医と24時間、365日の連携体制を確立。また、併設する特養看護師にも24時間連絡をとれる体制にある。ご家族には、夜間付き添い等協力を依頼し、協力医・看護師・家族・職員と連携しながら終末期ケアの体制を整えている。	入居時に事業所の指針「利用者事前指定書」を説明している。状態・状況の変化に合わせて家族に相談し「看取り介護に関する指針」を提示して家族の同意を得ている。職員は内部研修や事業所独自で看取りの学習をしている。看取り時には「看取り介護計画」を立て、家族の意向に添うよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	内部研修でのAEDの操作・心肺蘇生訓練の定期開催を実地。GH単独でも応急普及員に説明を受け、訓練を実地している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームの立地条件が山に囲まれていることから、避難訓練など特養と合同で年2回、GH単独でも年2回実地している。	避難訓練は、法人合同訓練と年2回事業所独自に夜間訓練を実施している。運営推進会議に報告し協力体制を整えている。街灯の増設、道路整地など上司と検討中である。立地的に山崩れなどの土砂災害に備えて特養と連携訓練もしている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	介助や話しかける際は、同じ目線にするよう配慮している。トイレや入浴時などは、その人の気持ちを優先させ、さりげなく声をかけている。	大声を出さない。1対1で目線を合わせて話しかけている。難聴者への声かけは職員で話し合い工夫している。利用者一人ひとりを尊重しプライバシーを損ねないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者ひとり一人に担当職員が決まっているため、本人の想いを聞き取り他職員にも共有し話し合いを持っている。利用者の希望をなるべく尊重できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室で静養されたりリビングでテレビや新聞をみたり、皆で調理をしたり歌を唄ったりとご本人の思いを大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	委託先理美容業者による訪問日を伝え、利用日を選んで頂き、カット、毛染め、顔剃りなど利用されている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日常において、調理の準備や後片付などを職員と共に行っている。また、毎月食べたい物など利用者に聞き、献立に組み入れたり誕生日には誕生者の希望メニューにしている。	食事担当者が、利用者と相談して献立、調理方法を決めている。調理の下ごしらえ、魚を焼く、配膳など職員と一緒にしている。旬の食材で郷土料理を作り、職員は教わりながら、利用者の生活に楽しみや、張りが出るよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事やおやつ、夜間においても意識した水分補給を行っている。また、毎月併設特養の管理栄養士に献立表を見てもらい、アドバイスなどもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝・昼・晩の口腔ケアを職員見守りのもと実地している。義歯の方は、週1回(月曜日)に義歯洗浄剤につけて清潔を心がけている。年1回歯科医による歯科検診も実地している。		

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意のない方、訴えのない方に対しても定時のトイレ誘導、落ち着かれない行動を察知して誘導を行うなど、気持ちの良い排泄支援を目指している。紙パンツから自己下着へと向上された方もいる。	利用者一人ひとりのパターンを把握し、声かけや動作から察知し、早めにトイレ誘導をしている。無理なく、自然にオムツがはずれ、自立につなげる支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	献立の工夫(繊維質を多く摂るなど)、水分摂取量の基準(1日1200ml)を目安に提供している。また、室内運動・外や併設施設までの散歩を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は一応設定しているが、その日の気分や体調で変更や交代もある。また、突発的なことに関してはこの限りではない。夏場などは、皮膚の状態に合わせて入浴の回数を増やしたりもする。	利用者の希望に合わせ、入浴時間も制約なく、好みの湯加減で、ゆったりできるよう配慮している。職員と会話をしたり、歌を歌ったり、一人ひとり楽しみな入浴になるよう支援している。入浴を拒む人には、時間を変え、声かけの仕方を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間安眠のため日中の活性化を支援、家事やアクティビティへの参加を促しているが、体調等配慮したり本人希望される場合など自室にて休息して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬を職員が管理、医師の指示により適切に配薬している。新しく処方された薬や形態変更においては、本人に随時説明している。(一部利用者)。職員間での情報共有に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫茶店・買い物・外出などを希望される利用者の方には定期的な外出支援を行い、畑での野菜作りや花植えも職員と一緒にしている。また、利用者同士の交流が深まるような場を作り出す工夫もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	併設施設で行われるイベントや定期行事に参加し、利用者同士の交流、生活の活性化を行っている。また、年1回ご家族や民生委員・苦情相談員の方々と日帰り旅行に出かけている。	日常は事業所や併設の特養・デイサービス周辺の散歩に出かけている。特養にある観音様の参拝や、移動販売の買い物に出かけている。町へは週1回の買い物、ドライブなどにも出かけている。	

グループホーム ハートフル

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一部の利用者が自分の小遣いを管理されており、施設内での販売や外出の際の支払いなど自己にて行っている。また、買いたい物がある時は、職員に希望を伝えその店に出向く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望あれば電話してもらったり、「家に帰りたい」など不安の訴えある時は、ご家族に電話をし声を聞いて安心してもらえるよう配慮している。個人で携帯電話を持ち、家族や友人と連絡を取っている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然に囲まれた環境で、四季の移り変わりを身体で感じ暮らすことができる。朝は鳥の声で目が覚め、風が吹いたり雨が降ったりと利用者の五感に刺激を与えてくれるリビングからの眺めは、楽しみなひとつである。	居間や各居室から直接庭に出ることができる。緑の木々に囲まれた庭にはテーブルや椅子を配置し、春には花見をし、小鳥とゆったり森林浴ができる。食事の匂いが食欲をそそる。畳みのコーナーはテレビを見たり、フトンカバーの交換したり、眠れない利用者は職員と一緒に寝たりすることがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホーム内にはソファや椅子が点在しており、自分の好きな時に気の合う仲間と自由に過ごして頂いている。ひとりになりたい時は部屋で過ごす方もいる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所された方には、家で使用されていた愛用の身の回り品を持参して頂いている。ご本人が落ち着ける空間を心掛けている。	冷蔵庫、位牌、書籍、ドラゴンズグッズ、子供からの感謝状など、思い出のある物を自分らしく配置している。ベットも自分に合った高さに調整し安心できる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の部屋が分らなくなる方のために、部屋の入口に表札を付けたり、トイレには「トイレ」と大きな文字で表記している。		